

京都教育大学教育後援会だより

(第 5 3 号)



2025 年 1 月 発行

編集 発行 京都教育大学教育後援会

〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地

TEL 075-644-8163

幼児教育科の学科紹介

幼児教育科 学科主任 平井 恭子



幼児教育専攻の学生生活

乳幼児の教育に責任をもって携わる保育者の育成を目指しています

幼児期はその後の人生の基盤を形成する、とても大切な時期です。特に身近な他者との間で基本的な信頼関係を土台に、遊びを通して心身を発達させることが重要です。幼児教育専攻は、乳幼児期を乳幼児期らしく過ごせるような教育の在り方を追求しつつ、教育学、心理学、保育内容の理論と実践の往還を通して、実践的指導力あふれる教員養成を目指しています。



附属幼稚園における充実した学び

幼児教育専攻の学生は 2 回生から附属幼稚園で先生方が保育する様子を観察したり、遠足や運動会などの行事に参加したりする機会があります。そして、その経験をもとに 3 回生の 6 月と 9 月に 2 週間ずつ、経験豊富な担任教師の指導を受けながら実際に保育を担当させていただきます。最初は考えていた通りにいかないこともありますが、子どもたち一人ひとりの成長発達に寄り添った保育を体験することで、保育の仕事の奥深さや楽しさを知り、「この仕事に就きたいという気持ちが強くなりました」という感想が多く聞かれます。



「うたとおはなしの会」の開催



2001 年から附属図書館と共催で実施している「うたとおはなしの会」は、長年にわたって地域の乳幼児や保護者にたいへん人気のイベントとなっています。2024 年 10 月 5 日には第 38 回を迎え、子どもたちが大好きな「どうぞのいす」のお話を 2 回生が人形劇で上演し、大好評でした。最近では、結婚後に親子で参加する卒業生の姿も見られ、10 月に 1 歳児と参加した卒業生は「この会に子どもと参加できて幸せです。後輩たちが頑張っている姿を見て元気をもらいました。」と述べていました。

京都府：大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業に参画

2022年度から、京都府が推進している「大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業」に参画しており、今年度で3年目になります。幼児教育専攻の学生は、毎年2回、京丹波町を訪問し、小学校やこども園の子どもたちと交流を続けています。今年度は2024年11月8日に京丹波町立みずほこども園を4回生12名が訪問し、0～6歳の子どもたちと交流しました。学生たちは「3びきのやぎのがらがらどん」の人形劇を上演したり、子どもたちとわらべうた遊びを楽しんだ後、京丹波特産の野菜や黒豆を使った美味しい給食をいただきました。子どもたちと一緒に食べる給食はとても美味しかったです。

来春4月から幼稚園やこども園に就職する学生にとって、大変貴重な体験をすることができました。

2024年12月11日には、京丹波町立丹波ひかり小学校を1回生20名が訪問し、1年生22名の児童と人形劇や音楽遊びで交流しました。



食育への関心、栽培に関する知識や技術の獲得



収穫した白菜や大根をお鍋にして、みんなで美味しくいただきました。

近年、食育への関心の高まりから、幼稚園やこども園において保育内容に野菜の栽培を取り入れる園が増えています。この状況を踏まえ、幼児教育専攻では、数年前から1回生対象の「KYOKYO スタートアップセミナー」、「基礎セミナー」等の授業で、年間を通じて様々な野菜を育てています。今年度は春から夏にかけて、トマト、キュウリ、ナス、オクラ、スイカ、サツマイモ、ジャガイモ、タマネギ、などを栽培してきました。11月からは聖護院大根や白菜などの冬野菜の栽培にとりかかっています。

これまで土に触れたり野菜の栽培をしたりした経験がほとんどない学生が多い中、みんなで協力して種まき、苗植え、水やり、収穫などを体験を通して、食に関する知識と保育現場で役立つ技術を身につけています。収穫した野菜は、みんなでメニューを考え、美味しくいただくことで、仲間の絆作りにも役立っています。

附属幼稚園の納涼大会に出演

2024年6月27日に、附属幼稚園で開催された納涼大会のステージ部門に3回生が出演し、ディズニーの音楽を使ったラインダンスや「美女と野獣」を題材にしたブラックファンタジーの公演をしました。「音楽教育指導法」の授業を中心に、昼休みや放課後にも練習してきた成果を子どもたちの前で披露することができ、先生方や保護者からも大きな拍手をもらいました。この経験を通して、仲間と協力して一所懸命取り組んできた達成感と大きな満足感を得ることができました。

息の合った
ラインダンス



子育て支援ルーム「ことりひろば」の取り組み



に遊んだりする経験を重ねるたびに、笑顔が増え、自分から保護者や子どもと積極的に関わる姿が見られるようになります。「ことりひろば」は子どもたちだけでなく、孤立しがちな保護者同士の交流の場としても、大切な機会になっています。

コロナ禍前までは、附属図書館 1 階児童書コーナーで、乳幼児向け読み聞かせの会「えほんのもり」を開催していましたが、コロナ禍後は、同活動が、附属幼稚園子育て支援ルーム「ことりひろば」として、引き継がれています。

「ことりひろば」は主に 1 回生が中心となって、毎月 2 回、附属幼稚園の子育て支援ルームで開催しています。入学後間もない 1 回生は、大学生になるまで乳幼児と直接接する経験が少なく、どのようにコミュニケーションをとったらよいか分からず、最初不安を感じる学生が少なくありません。しかし、子どもに声をかけたり一緒に

1 回生は、秋にサツマイモを収穫した際、芋蔓でリースを作り、1 か月以上かけて乾燥させた後、11 月 27 日に飾りつけをしました。



教育実習を終えて

理科領域専攻 3 回生 藤井 良多

「教育実習に行くと、自分が教員に向いているかどうか試されるのではないか」そんなことを考え、もし自分が教員に向いていないと思ってしまったらどうしようと不安を抱えながら私は 3 回生になりました。しかし、主免実習を終えて、教育実習は自分を試す場ではなく知る場なのだと気がつきました。これから、体験談をもとに学校現場で実習ができて良かったと思うことを述べます。

京教では 3 回生の春と夏に主免実習に行きます。私は中学校理科教員志望なので、附属桃山中学校の理科で実習を受けました。春の実習では、配属される学級の生徒や先生に挨拶をしたり、附属学校の先生の授業

を見学したりしました。そこで学校の雰囲気や生徒の様子を観察し、自分が授業をする単元について指導教員と打ち合わせを行いました。その打ち合わせをもとに大学に戻って授業準備をし、夏の主免実習では実際に生徒の前で理科の授業を行いました。およそ 3 週間の実習を終えて、授業の指導案(細案)やレポートをまとめ、大学で事後指導を受けました。これが私の受けた主免実習の全体の流れでした。

この主免実習で特に良かったのが、生徒観がわかるということです。大学の授業で 1、2 回生のときに模擬授業を何度も経験しましたが、いつも生徒観に苦戦していたのを覚えています。自分も中学生だった時期

があるはずなのに、指導者の目線で同級生を見た経験がないので、自分の計画した授業が本当に生徒の学びになるのか、生徒がどのような反応をするのかわかりませんでした。主免実習では、実際の児童生徒と直接関わることができます。例えば、私は配属された学級の生徒と休み時間に話をしたり、お昼ご飯と一緒に食べたり、掃除を一緒にしたりして関わりました。初めは歳の離れた生徒にどう接したらいいかわからず苦労しました。しかし、好きなことや流行りのこと、どんな理科の授業を受けたいかなどをとにかく質問することで、今の中学生が考えていることや求めていることを知ることができました。また、学級の先生が詳しく生徒の特長や関係性について教えてくださったおかげで、生徒の反応を予想しながら授業の指導案を考えることができるようになりました。ここで生徒観を理解することができたので、大学の講義でつくる模擬授業もより生徒を意識して行うことができるようになりました。

次に良かったと思うのが、仲間と協力しながら実習に挑めるということです。主免実習は、個人で行うのではなくチームで行うものです。担当学級のチーム、同じ理科領域のチーム、そして実習生全員のチーム、この三つチームで私は実習をすることができました。まず、私の担当の学級は、他にも4人の実習生がいました。同じ領域の人もいれば、他の大学から母校実習で来ている人、大学院生もいて、様々な視点から学級運営について学ぶことができました。学級では道德科の授業を実習生が担当したので、毎週学級チームで道德科の模擬授業をして意見を出し合いました。自分がない他の立場の意見を取り入れることができたおかげで、柔軟な道德科の授業を実践することができました。そして、同じ理科領域の仲間とは、互いの授業を見学し合い、理科の視点から授業の改善を議論し合いました。特に私は、放課後に理科の仲間と模擬授業をしながら理科の教育について話し合った時間が楽しかったのを覚えています。ああでもない、こうでもない議論を重ね、ともに悩み、大学でこれまで受けた授業を頼りに課題を解決できたときは、他では経験できない達成感や幸福感を感じました。教材研究を仲間と一緒に

にできたことで、より理科の見方・考え方の理解を深めることができました。生物の進化の単元を3人の理科領域の仲間と担当したのですが、進化の単元は実験がない分、教材を工夫しようと何度も模擬授業と議論をした結果、「生物の進化ポスター」「生物の進化カードゲーム」「生物の進化クイズ大会」と、三者三様のオリジナル教材を開発することができました。仲間と一緒にだからこそ、納得のいくまで教材研究ができたと思います。さらに、他の領域の実習生と同じ控え室だったので、共に頑張る仲間がいることを常に意識することができ、最後までやり遂げることができました。このように仲間と協力すると大きな課題を乗り越えられることや、助け合うことの楽しさを知ることができました。

実習に対して不安をもっていた私がこのように実習に臨めたのは、附属学校の先生の厚い支援のおかげです。授業が上手くいかず悔しい思いをしたときも、生徒との関わりで嬉しいことがあったときも、担当の先生が正しく助言くださり、次の実践に向けて背中を押してくださいました。教育のプロである先生の言葉には重みがあり、どれも学びになるものでした。

教育実習は成功ばかりではなく、失敗も多く経験しました。今振り返ると、初めて教壇に立つのだから上手くいかないことがあって当然だったと思います。だからこそ、知ることができました。実際の生徒観を、教材の面白さや指導の難しさを、仲間と協力することの力を、学校には子どもを愛する先生で溢れていることを、知ることができました。何より、自分の準備した授業で生徒に反応をもらえることが、こんなに嬉しいことだと気づいたことが私の宝です。このような経験を4回生ではなく3回生の夏にできることに大きな意味があるのではないのでしょうか。これから自分の将来や教育について向き合うための材料を教育実習で得ることができたので、実習を支援して下さった大学の職員の方や、共に学んだ仲間、附属学校の先生方には心から感謝しています。そして、この先教育実習を受ける後輩には、実習で思いっきり挑戦してみようことを強く勧めます。そこで得られる経験が、きっとあなただけの知る学びにつながるはずです。

◎本学では、1回生から体系的な実地教育プログラムを編成しています。

主な実地教育プログラム

本学では、幼・小・中・高から一つの学校種を選択し、選択した学校種の教員免許状の取得が可能になる教育課程を履修します。各学生が選択した学校種(教員免許状)を「○主免」(幼主免・小主免・中主免・高主免)と呼び、「主免」の学校種の教育実習を「主免実習」と呼んでいます。また、複数校種の教員免許状を取得する学生が大多数で、主免とは別の学校種の免許状を「副免」、その教育実習を「副免実習」と呼んでいます。

1回生	公立学校等訪問演習
2回生	附属学校参加実習
3回生	主免実習(附属学校)、介護等体験 公立学校インターンシップ
4回生	副免実習(附属学校) 公立学校等教育実習(オプション)

クラブ活動報告

女子サッカー部 主将 北見 汐（体育領域専攻 3 回生）

京都教育大学女子サッカー部は、現在3 回生 6 名（学生スタッフ 1 名）、2 回生 4 名、1 回生 5 名（マネージャー 2 名）の計 15 名で活動しております。「好きこそものの上手なれ」というスローガンを掲げ、日々練習に励んでいます。私たちは大学からサッカーを始めた初心者部員が約半数を占めているとともに、決して人数が多い団体とは言えません。しかし、その分仲の良さ、部活が好きという想いを全員が強く持ち、全員が本気で部活動に向き合っております。週 4 日の練習を、楽しみながらも成長できるよう、日々取り組んでおります。

弊部は、関西学生女子サッカー 2 部リーグに所属しております。今年度の秋季リーグにおいては「リーグ総得点数 10 点」という目標を掲げて活動しました。敗戦や失点、課題など自分たちができていないことに目を向けがちでしたが、うまく声を掛け合い、修正してきました。リーグを通して、互いの良い所を見つけ伝え合い、引き出し合い、チーム力を上げられるよう努力しました。そして、リーグ目標であった総得点 10 点を達成することができました。リーグに所属する他大学とは経験値も人数も劣ってしまうかもしれませんが、京都教育大学女子サッカー部にはそれをカバーできるチーム力があります。秋季リーグは、そのチーム力をそれぞれが実感し、発揮できたからこそ、目標を達成することができたと思います。

関わってくださるすべての方々のおかげで、京都教育大学女子サッカー部があると思います。OB・OGの方々をはじめ、多くの方に恩返し、良い報告ができるよう、これからも活動してまいります。「好きこそものの上手なれ」のスローガンのように、好きなサッカーを、好きな部活動に本気で向き合い、成長し続けていけるように走り続けます。1 月に開幕する京滋リーグ、来年度の春季リーグ、秋季リーグ、皇后杯などこれからも全員で挑戦し、次の目標を達成できるよう頑張ります。今後とも応援の程、よろしくお願いいたします。



女子サッカー部の皆さん

劇団ひなたぼっこ 所属 岩川 茉央（国語領域専攻 1 回生）

劇団ひなたぼっこです。私たち「劇ひな」では、7 月に夏季公演、10 月に新人公演、2 月に本公演と一年に 3 回の定期公演を行っています。今年度は 1 回生が 5 人入部し、2 回生 7 人、3 回生 7 人、4 回生 7 人計 26 名で活動しています。部員一同とても仲が良く、和気あいあいとした雰囲気で行っています。

普段の活動では、発声練習は勿論、公演に向けての稽古や、ワークショップなどを行い、それぞれの演技の幅を広げられるように日々頑張っています。

7 月に行った夏季公演「伏見のジュリエット」では、京都教育大学のある“伏見”を舞台としました。そして伏見区にあるお店に協力してもらい、ポスターをお店に貼らせていただくなど、広報活動を初めて学外で行いました。また、照明に LED を新しく取り入れ、舞台がさらに彩られました。おかげさまで予約が満席になった日もあり、本年度の初公演にふさわしいスター

トダッシュを切ることができました。

10 月に行われた新人公演「ちょっと太陽が眩しすぎて」では、1 回生の書いた脚本が採用され、5 人の演者の中で 3 人が 1 回生と初々しい公演になりました。さらに照明を夏季公演よりバージョンアップし、演技の幅が広がる舞台となりました。

また、外部での活動も行いました！11 月 2 日、京都テルサにて開催された「KY0 のあけぼのフェスティバル 2024」に参加させていただきました！私たちは、観客参加型のヒーローショーを行いました。初めての外部活動であったため、たくさん悩むこともありましたが、その中でもどのようにすれば見てくださる方が楽しめるか、どのようにすれば参加してもらえるか、照明・音響の設置など、試行錯誤を繰り返して稽古を進めました。当日にはたくさんのお客さんに来ていただき、楽しんでもらうことができました。

さを詰め込み、よりよい舞台を創っていけるよう稽古に励んでいます。是非お越してください！



A man with dark hair and glasses, wearing a dark short-sleeved button-down shirt over a white t-shirt and light-colored trousers, stands on a stage. He is holding a small white cat mask with blue and pink accents in his right hand, extending it forward. In the background, another person is seated on the stage, wearing a light-colored jacket and dark pants. The stage is lit with warm, orange-toned lights, and the background is dark.

劇団ひなたぼっこの活動の様子

 2023年度 卒業生・修了生進路状況

専攻等名	卒業・修了者数	現職教員 等有職者	教諭、常勤講師、 非常勤講師、保育士	公務員、法人等職員、 企業	進学	その他	教員就職率（％）※
教育学専攻	27		17	7	2	1	66.7%
幼児教育専攻	18		12	4	2		55.6%
発達障害教育専攻	15		11	3		1	73.3%
国語領域専攻	25		20	4	1		83.3%
社会領域専攻	33		25	4	3	1	83.3%
英語領域専攻	23		13	2	7	1	81.3%
数学領域専攻	29		12	6	9	2	60.0%
理科領域専攻	34		20	7	7		74.1%
技術領域専攻	16		10	3	2	1	71.4%
家庭領域専攻	21		14	3	4		82.4%
美術領域専攻	16		8	3	5		72.7%
音楽領域専攻	11		8	2	1		80.0%
体育領域専攻	26		13	6	6	1	65.0%
教育学部 計	294	0	183	54	49	8	73.8%
大学院教育学研究科	3	1	0	0	0	2	0.0%
大学院連合教職実践研究科	68	14	46	4	0	4	85.2%
特別支援教育特別専攻科	14	9	5	0	0	0	100.0%

教員就職率※ $(\text{教諭} + \text{常勤講師} + \text{非常勤講師}) \div (\text{卒業/修了者数} - \text{現職教員等有職者数} - \text{大学院進学} - \text{保育士} - \text{認定こども園})$